

# 本條秀太郎の会 伝えゆく詩達 「鄙哥」

去る4月21日、東京・紀尾井小ホールにて、本條秀太郎の会による「鄙哥」公演が催された。

本條秀太郎ならではの民謡公演だから、普通の民謡の舞台とは異なり、座敷唄はもちろんのこと仕事唄であっても盆踊り唄であっても、あるいは子守唄であっても、肅々と奏でられ、歌われる。



静謐の中で聞く、これもまた民謡の一形式なのだろうと思わせられた。

第一部は座敷唄を中心として、本條が一人で弾き歌う。「江差追分」「安房節」「長崎さわぎ」などなど。

そして第二部は衣装も改めて、仕事唄、盆踊り唄、子守唄などが披露された。変わったところで「初伊勢」（神奈川）、「思い節」（東京）、「湯浅醬油造り唄」（和歌山）、「同信や同心や」（福井）など聞き慣れない唄も舞台に乗せられる。

いつものように本條の解説が挟まり、その唄の扱って立つところや今日の在り様などが独特の物言いで説明される。唄の背景を知ることによって耳に入ってくる音も豊かに、そして清冽となっていくのだ。とてもお勉強になるという満足感を得られる舞台であった。